

令和7年度高等学校等生徒指導連絡協議会 報告

6月19日(木)、新潟県立教育センターを会場に開催しました。

1 目的

高等学校等の生徒指導上の諸課題について幅広い知識と態度および技能を身につけ、その資質や指導力の向上を図る。

2 内容

- 講義「これからの生徒指導に必要な視点」
- 講義「SNSトラブルの防止について」
- 報告「令和6年度生徒指導基幹研修から学んだこと」
- 講義「p4cとはどのような教育か？」 新潟大学 教授 豊田 光世 様
- 情報共有(グループ討議)

報告「令和7年度生徒指導基幹研修」では、筑波大学災害・地域精神医学教授の太刀川弘和様のご講義「学校危機と向き合う生徒指導－自殺予防対策を中心に－」から得た学びについて報告が行われました。生涯を通じたメンタルヘルスの基礎作りとして自殺予防教育が必要であることや、ゲートキーパーとなる教員の基本的な対応の手順、相手の話を聴くときの姿勢や声かけの例などが説明されたあと、演習として、架空事例について自殺の危険因子やリスクをどのように捉えるか、学校としてどのような対応をすればよいかについて考える時間となりました。子どもたちを支えていくためには、子どもの小さなサインに気づき、訴えに耳を傾けることに加え、必要な支援者や相談機関に「つなぐ」ことも大切であることが分かりました。

講義「p4cとはどのような教育か？」では、子どもたちが対話を通じてともに考える力を育むp4cの教育について詳しく説明していただきました。子どもたちの「なぜ?」「どうして?」という問いを深め、時に自分たちが当たり前と思っていることさえも揺さぶりながら、対話を通して新たな見方・考え方を探究するものです。この探究を支える基盤として、セーフティ(知的安全性)を醸成していくことが重要であることが分かりました。教師自身も子どもの問いの背景にある語りをじっくり聴き、子どもが主体的に考えることができるよう見守り、支えることが大切であることを学びました。子どもたちが自由に問いを立て、考える主体となる機会をつくることは、従来の生徒指導から、生徒に寄り添い支える指導への転換を目指す学校にとって重要な視点であり、とても参考になるものでした。



新潟大学 佐渡自然共生センター 豊田 様